



横浜市 カーボンニュートラル 事業創発ワークショップ

2023年10月～11月

はじめに

380万人の人が暮らす横浜市は、産業、貿易や文化などの多くの分野で、新しい動きを起こしてきました。市内には先進的な電気自動車や太陽電池を開発する大企業や研究機関も、地域の資源を活用して子供から高齢者までが暮らしやすい地域社会にする活動に取り組む「リビングラボ」などもあります。

横浜市は、2050年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」を目指しています。このため、脱炭素ライフスタイルの普及と、市内経済の循環及び持続可能な発展を推進を目的として、あいおいニッセイ同和損害保険とともに「循環経済等に資する

魅力的な脱炭素ライフスタイル創出・浸透事業」を実施しています。

脱炭素で循環型の暮らしを広めるには、市民ひとりひとりの気づきや行動を支える、新しいサービスや地域活動が必要です。

そこで横浜市とあいおいニッセイ同和損害保険は、市内で活動する起業家、地域の市民グループや学生を対象に、カーボンニュートラルで循環型の暮らしに役立つビジネスのアイデアを話し合い、実現を目指すワークショップを開催しました。

1.5°Cライフスタイルの活用

ワークショップ参加者は、カーボンフットプリントや1.5°Cライフスタイルの脱炭素行動などを学びました。脱炭素行動には、市民の気づきで今すぐ始められるものもありますが、新しいサービスや製品があると多くの人に取り入れられるのではないかと思えるものもあります。

参加者の皆さんは、脱炭素につながる暮らしを学んだあと、脱炭素型の暮らしに役立つサービスや地域活動の案を出し合い、共通点のあるサービスや地域活動を提案した人たちが7つのグループに分かれ、実現するための詳細なプランを作りました。

参加者は4回の対面ワークショップだけでなくワークショップとワークショップの間にもオンラインで意見交換を続け、提案の改善に取り組みました。最終回では各グループが作成した事業活動の提案を共有し、事業創発や脱炭素の研究に関わる専門家から、事業の具体化に向けたアドバイスを受けました。

参加者が提案したサービスや地域活動には、次のような案があります。

- コンパクトシティを目指すためにオフィスのスペース活用や働き方の変革
- 太陽光発電やEVと関連付けた保険商品
- 生ごみの資源循環
- 再生可能エネルギー売買のためのコミュニティ
- 地域コミュニティを活かしたフードシェアリング
- 脱炭素に関する啓蒙普及活動
- ゼロカーボン特区の設定

参加者は、横浜市や協力企業などと相談を続け、提案されたアイデアを実現するための準備を進めています。



1.5°C Lifestyles
脱炭素型のライフスタイル

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/1p5deg-lifestyles>

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES)

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11
Tel: 046-855-3700 E-mail: iges@iges.or.jp